

2025（令和7）年度 学校評価の重点目標・評価項目・評価の観点

学校教育方針	中・長期目標	次年度への課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、教育基本法並びに学校教育法に則り、新しい時代に相応しい健全な家庭人、有能な社会人として、教養豊かな女性教育を育成することを目的とし、特に仏教精神を基盤とした情操道義の教育に重点をおく。 ・建学の精神「うつくしく生きる」を基とした教育活動を行う。浄土真宗の教えに基づいた仏さまの教えを通して「大切にされているわたしに目覚めていのちを輝かせる」教育活動を実践する。 ・地域から愛され、選ばれる学校を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針を基本とし、時代に即した教育を行う。 ・「建学の精神」の具現化に努める。 ・「和顔愛語」「先意承問」の精神の具現化に努める。（和やかな顔・表情、美しく優しい言葉、相手の立場に立って誠意をもって立居振る舞う） ・「B・A・S・E」(勉強・挨拶・掃除・笑顔)4つの基本を大切にする。 ・「いのち」「時間」「ことば」を大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学園の建学の精神「うつくしく生きる」を教育活動の中心におき、その具現化に努めていくことは、本校にとって引き続き引き続き大切なことである。そのためには、全職員が浄土真宗の教えを積極的に学ぶ場面を持つことも必要だと考える。 	
	今年度の重点目標		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「建学の精神」の共有 2. 入学者の確保 3. 教育の質の向上 4. 生徒に対する支援の充実 5. 地域貢献・地域連携活動の推進 6. PTA・同窓会との協力 7. 進路支援の強化・充実 		

《達成度 A：ほぼ達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：不十分》

【事業目標1】建学の精神「美しく生きる」の理解を深め、常に意識する							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
宗教行事	釈尊降誕会・報恩講への全校生徒と全教職員の積極的な参加を行う	宗教科・学生会	1	宗教行事に積極的に主体的に参加することができたか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の東本願寺研修では、飯田女子高校のルーツについて考え、東本願寺を訪れることで「私の原点を尋ねる」研修を行うことができた。（一学年会） ・宗教行事だけでなく「金曜法話」等の活用を行った。（2学年会） ・1年生東本願寺研修では、1学年会と協力しながら、生徒が安心して自己対話ができる研修とし 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度から東本願寺研修は2年生で実施。クラス替えを経てからの研修になるので、生徒個々の成長、クラスとしての成長など、長期的な目標を掲げやすくなると
学校行事	「東本願寺研修」(1年生)を通し、本校が存在する意味を理解し、そこで学んでいく意義を探す。		2	本校で学習以外に何を学ぶのかを理解できたか。			
通年	「仏教」の授業はもちろんのこと、その他の授業や行事・課外活動においても、全て仏教の精神がその根本にあり、その考えのもと教育活動を行う。		3	全校生徒と全教職員が本校で学ぶことを理解しているか。			

宗教研修	初任研修・宗教研修・宗教担当者研修への積極的な参加。	管理職・宗教科	4	研修で得た知識、発見から、自ら本校で仕事をする意義を考え、伝えることができたか。	<p>て運営できた。(宗教科)</p> <p>・学校全体が一丸となって釈尊降誕会、報恩講、真宗大谷派学校連合会合同報恩講のお勤めをすることができた。また、教員対象の宗教行事事前学習会を2回実施し、生徒だけではなく教員も「私の釈尊降誕会・私の報恩講」としてお勤めしていく意識付けはできた。(宗教科)</p> <p>・研修に積極的に参加できるよう配慮を行った。研修で得た知見については、伝達研修会を通じて全職員へ共有する機会を設けた。(管理職)</p>	<p>期待できる。(宗教科)</p> <p>・報恩講では学級閉鎖のクラスや欠席者が多かったため、補講を実施したが、急遽の対応となってしまったため、次年度からは各部署と相談しながら計画的に実施していきたい。(宗教科)</p> <p>・引き続き、研修の受講を積極的に促すとともに、情報共有の機会を設けるなどして、職員全体の意識向上を図っていく。(管理職)</p>

【事業目標2】B(勉強)A(挨拶)S(掃除)E(笑顔)の基本を大切にする							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
BASの履上	普段から「勉強・挨拶・掃除・笑顔」を意識し、学校生活を送る。	学生会	5	何のために勉強し、挨拶し、掃除し、笑顔であるのかを自覚でき、実践できているか。	A	<p>・HRや合同HRを通じて日頃から意識できるよう心がけ、多くの生徒に浸透し実践することができた。学年が上がるにつれ身につけていくようであった。</p> <p>・日常生活の中で意識しながら取り組んだが、できる生徒とそうでない生徒との差も大きかった。(2学年会)</p>	次年度も引き続き意識持つことと実践を心がけたい。(2学年会)

【事業目標3】南無阿弥陀仏の教えを学ぶ							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
Sの履上げ	「いのち・時間・ことば」を大切にする。	学生会	6	自分の人生を大切に生きているか。	B	<p>・ひとりひとり自分を見つめ直し、学校生活に一生懸命取り組んだ。(一学年会)</p> <p>・日頃のホームルーム等で意識できるよう心がけた。(2学年会)</p> <p>・抽象的な観点であるので評価不能(3学年会)</p>	都度、教員自身が直接的な言葉表現行動で姿を見せていく。

【事業目標4】入学生数の安定を図る(教職員全員が募集活動)							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
特色の明確化	私学・仏教・女子教育を明確に打ち出す。	管理職・生徒募集	7	地域から、理解され、認められているか。	A	<p>・受験者の増加を目的とし、募集行事の見直しを行った。その結果、多くの行事で前年比150%の集客を達成した。</p> <p>・(株)学びの森との親密なパートナーシップ関係のもと、効果的な募集活動が行えた。</p>	<p>・私学・仏教・女子教育に関しては、来年度更に強く打ち出す。</p> <p>・入試改革を行った結果を細かく分析し、入試区分一つ一つの制度設計を丁寧に見直し、次年度に向けた戦略を練る。</p> <p>・次年度の入試改革として、一部</p>
	入試方法		本校独自の入試方法を行う。	管理職・教		8	入試方法の改定が中学校側に理解され、多くの受験生があったか。

西コースの見直し	令和8年度入試よりEクラスの募集を停止。総合コースという名称を新たなものにするように検討する。		9	各コースの特色飲み直しや更なる充実に向けての検討ができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・募集行事に参加した中学生のうち、約5割が出願につながった。 ・新入試の導入に向け、パンフレットやHPを通して地域に周知した。(生徒募集) ・入試改革として、①Eクラスの募集停止、②文化スポーツ特別入試・自己推薦入試の導入、③2次募集停止、④Web出願の導入を行った。 ・入試結果としては、昨年度131名に対し、今年度171名と40名増となった。(管理職) 	<p>年内入試導入に向けて検討を重ねる。(管理職)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集行事への参加者の増加率と出願者数の増加率が、完璧には比例しなかった。次年度は、募集行事参加者を確実に出願につなげる活動を行う。 ・新入試(特に文化スポーツ特別入試)に対応した募集行事を実施できなかったため、次年度は企画・実施する。(生徒募集)
施設充実	学習活動・課外活動がより安全に効果的に行えるように施設の充実を図る。	管理職	10	施設の新設か耐震設備か取り壊すかの議論を行えたか。 自習室の設置・拡充ができたか。 講堂の新築・改築、耐震設備等の議論を行えたか。 合宿棟の改築・耐震設備等の議論を行えたか。	B <ul style="list-style-type: none"> ・施設に関してはそれぞれ議論は重ねたが、解決策を見い出せなかった。 ・自習室拡大に関しては今年度は実施できなかったが、抛れームという“第3の居場所”作りは行えた。 ・合宿棟に関しては、来年度より使用しないことを決定。(管理職) 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に関しては予算も含め、引き続き議論が必要。 ・生徒数増を旨として学校全体で努力を重ね、施設充実に向けての資金を工面することが必要不可欠。(管理職)

【事業目標5】個々の学力・人間力の向上を目指し、進路の実現を図る							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
学習態度確立	新教育課程に即し、本校独自の教育を行う。ICTを活用しての「個々に応じた学び」を行う。探求活動を積極的に授業に取り込む。 時代に合ったカリキュラムの検討を行う。	教務・進路	11	新教育課程に応じた学びが実行できたか。 教職員で内容について検討できたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用については、基本的にロイロノートで対応できている。個別最適な学びとしてリクルートのスタディサプリの導入を検討したが断念。次年度へ。teamsの年度途中からの利用を考えていたがこちらも断念。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度末にClassi、スタディサプリの検討。どちらかを導入しAIも活用した個別最適な学びを提供。teamsの導入。試験返却をteamsで実施。(教務)
学力向上	<p>「高等学校基礎学力テスト」の改定に備え、全生徒の基礎学力を向上させる。</p> <p>「大学入学共通テスト」に備え、全生徒(大学進学希望者)の基礎学力及び応用力を身につける。</p>		12	「高等学校基礎学力テスト」の結果を踏まえ、更なる指導にあてたか。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けて総合的な探究の時間を全学年2時間共通で行うカリキュラムを構築した。(教務) ・新入生に対してベネッセ担当者による進路ガイダンスを実施するなど、学力テストや模試のデータの見方を専門の方から説明いただく機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいカリキュラムを実践しながら見直しを実施。(教務) ・年2回の基礎学力テストに関しては、その効果的な活用方法について職員全体が理解を深めるための定期的な研修が必要である。大学入学共通テストについては、進学コースを中心としてより多くの生徒が主体的に受験するような長期的・計画的な指導が必要である。担任・教科に任せるのではなく、進路指導委員会と教務が中心となって、生徒たちの受験に対する心構えや基礎的な学力・情
進路指導	地域学習塾と連携し、幅広い生徒層への学力定着・向上を目指す。 (評価指標)		14	生徒の希望する志望校に入学させることができたか。 補習を受ける生徒を減らすことができたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストに関しても本年度から始まったインターネット出願について説明会を複数回開き、情報の共有を徹底した。また、ベネッセ・河合塾の判定な 	

進路指導	学習指導要領に応じて、アクティブ・ラーニングや資質・能力の育成、カリキュラム・マネジメントの研究と実践を行う。また高大接続改革を推進すべく、そのための研修会などにも全教職員が取り組む。 (評価指標)		15	新しい時代に相応しい人材を育成できたか。		<p>どを志望校の決定に活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任による懇談会や進路面談を中心に、生徒個々の進路希望や気持ちの変化を把握するよう努め、各々の希望に最適な進路パターンについて助言を行った。 ・看護医療希望者に向けた高大接続事業を新たにスタートアップさせたり地域の総合病院の方による相談会などを通してキャリア教育に外部の方の協力を拡大した。(進路指導) ・キャリアでは生徒が自分の進路にむけて、主体的に探究活動や職業体験などに取り組めるよう、掲示ボードやロイロノートで周知を図った。 	<p>報量の底上げをするための全体的である程度の強度のある指導を次年度以降は展開していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的には、それぞれの生徒の進路希望を教科担当含め職員全体で共有し、定期的に指導方法などについて関係者で会議を設ける。 ・普段の授業の内容や定期試験の内容が適切かどうかの検証も必要である。(進路指導) ・キャリアとは進路だけでなく、生き方にもつながるという視点に欠けていた。生徒の生き方の幅が広がられるような内容を考えていく必要がある。
	各教科研究授業を行い、教職員が見学し、反省会を行う。	教務・管理職	16	自らの授業の糧にし、その後の授業に生かされたか。	B	<p>各教科、新任教員がいる教科は研究授業を行い、反省会が実施された。(教務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修に積極的に参加できるよう配慮を行った。研修で得た知見については、伝達研修会を通じて全職員へ共有する機会を設けた。(管理職) 	<p>新任だけでなく、全教科で必ず年1回は研究授業を行い、教員のブラッシュアップにつなげていく。(教務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、研修の受講を積極的に促すとともに、情報共有の機会を設けるなどして、職員全体の意識向上を図っていく。(管理職)
	研修後、インプットしたことを、口頭もしくは文書でその他の教職員にアウトプットし、身につけた教養を共有できるようにする。		17	発表者の教養が他の教職員に伝わったか。			
PTA 向けの授業公開や公開講座を設ける。	教務	18	多くの保護者に授業見学の機会が設けられたか。見学された保護者から意見や感想を聞き取れたか。本校の授業を受けた保護者が、生徒と同じような立場で授業を受けることにより、学校・教員理解につながられたか。	B	<p>今年度は公開授業を5月と10月に3日間ずつ開催した。見学希望者はのべ107名。前日や当日になって見学希望があった場合も受け入れた。(教務)</p>	<p>公開授業は来年度も年2回に3日ずつを計画し、今年度と同じ方法で実施する。ゆくゆくは、同様の形式をとりながら、各教科の授業で公開したいものを保護者や地域に向けて公開していきたい。(教務)</p>	

【事業目標6】 基本的な生活習慣の確立／自己肯定感・自己有用感の育成／自利利他の精神							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
基本的な生活習慣確立	欠席・遅刻・早退の原因を把握して、適切な指導を行う。	生徒指導・特別支援・学生会	19	欠席・遅刻・早退が減少したか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内での服装や挨拶は、従来の本校生徒らしく全体としては出来ていた。 ・中学時代から不登校傾向の生徒がいて、その延長で学校に向かない生徒が以前より増えている。人間関係の構築が苦手や、自己肯定感、有用感人間関係乏しい生徒も散見されている。心療内科通院、また精神科への入院の者も見られた。この生徒たちに、本校の教職員が出来ることは、本人の存在 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績や欠課日数、生徒指導案件などで、長期のアルバイトや自動車学校など制限がかかることを、早い段階で、本人はもちろん親御さんにも何回も丁寧に説明をしていく必要がある。 ・教職員の生徒や保護者、外部の方などに対して普段からの言動に細心の注意を払う必要がある。 ・教員同士が密の連携を取り合い、目の前の1人の生徒をしっかりみて育てていく気概を持ち、実
	身だしなみについて日常的に意識させる。		20	清楚で TPO に応じた高校生らしい服装ができていくか。			
初期段階学習指導	ホームルーム・授業・クラブ活動など学校生活の諸活動の場面で生徒の変化に気づき、適切な対応を図る。		21	早い段階で生徒の悩みを見つけ、解決できたか。			
心の安定指導	様々な不安や悩みから言動に変化が表れる生徒に対し、教員が1対1での対話を通じて心の安定を図る。		22	不安や悩みを持つ生徒が安心して相談でき、その相談が解決に向かったか。			

	<p>全教職員が学年や係などのそれぞれの立場で連携をとり、指導にあたる。</p>	<p>23</p>	<p>不安や悩みを持つ一人の生徒に対し、教職員が把握し、指導にあたれたか。</p>	<p>を認めてあげ、自分がある場所を校内で作ってあげる事だと再認識した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームや授業、クラブ活動における担任や教科担当、クラブ顧問が、どのような関係を築いて行くか、些細な言動でも当該生徒やその親に不信感を持たれることがあった。 また生徒や親に必ず伝えなければならぬ内容について、仕え方、時期、伝わっているかの確認不足などでクレームの連絡が入ることがあった。 ・学年会や課外活動等の他の教員と連携をとりながら、1人で抱えるのではなく、協同していくことが大事となる。 ・今年は生徒指導の中に「拠」の先生が入っていただいた。良い点は、普段話さない内容の生徒の気持ちや事例が早く入っているようになった。しかし、その内容がうまく直接その生徒に関わっている教員に伝わらなかった。 ・生徒指導の会議を数回しか行えなかったため、指導のあり方や方法、また指導方針を共有する場面が得られず、学ぶ機会や情報交換の機会を逸した。(生徒指導) ・ホームルームや授業、諸活動の場面で生徒の面談を行ったり、教員同士連携を図ったりし、適切な対応を行った。(一学年会) ・学年会の中では情報共有を意識し、校則面でもその場で指導してきた。その結果、改善がみられた生徒もいれば、今後も指導が必要な生徒もいた。また、「拠」との連携の中では情報共有ができていない面もあり、学年会と「拠」担当者との乖離もあった。改めて情報共有の重要性を感じた。 ・欠席欠課が多い生徒へは保護者生徒との話をタイムリーに行い指導してきた。 ・服装など校則に関しても生徒の意識、学年会での連携がとれ指導を行った。(3学年会) 	<p>際に行動していく。(生徒指導)</p> <p>共有がうまくいかないところがあったので再度徹底が必用</p> <p>形や数字におもきを置くあまり、本質を伝えるにくなってきている。現状の子供にあった規則の見直しが必要(3学年)</p>
<p>生</p>	<p>生徒の自主的活動を促す指導をする。</p>	<p>学</p>	<p>24</p> <p>全生徒が課外活動に積極</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるにつれて、人と人 	<p>教員の勤務時間も考えつつ、生徒</p>

	様々な場面で、周囲の人の気持ちや立場を尊重して発言し行動できるように指導する。		25	的に参加し、教室以外に自分の居場所を確保できているか。	B	とのつながりや、地域とのつながりを主体的に考え、活動に意欲的に取り組む姿が見られた。また、今年度より朝練習を完全に廃止し、10月以降の活動も夏時間を希望する生徒を確認し活動するなど、取り組み方を変化させた。(課外活動) ・2年生の、最上級学年になっていく意識づけを合同HR等で行った。(2学年会)	とともに計画的に活動していくことにより、生徒の主体性や自主性を伸ばしていく。また、土日のクラブ活動における登下校時の服装についても検討を進めていく。(課外活動)
	将来主権者として、世の中の出来事に関心を持ち、行動できるように指導する。		26				
活動の方法	生徒会・クラブ活動など生徒の自主的な組織のルールやマナーを守り、民主的に運営されるような指導を行う。		27	その活動を通して、社会性、遵法精神を身につけたか。			
文化祭の取組方法	本校文化祭の意義や理念を知り、それを実現するために努力できるような指導を行う。		28	文化祭を通して、生徒個々が人間的に成長できたか。生徒が主体的に企画・運営に携わっているか。	B	生徒会役員は「一人ひとりが輝ける」文化祭になるように、企画・運営を進めていった。また、全校生徒だけでなく、来校者に満足してもらえるよう企画を立案し、実行した。この結果、多くの来校者を迎えることができ、生徒自身も楽しむことができた。(生徒会)	時代の変化や環境の変化に対応したスタイルの文化祭の検討があっても良い。また、校内祭と招待日の位置づけを今一度考え、どの順番で実施するのが生徒にとってよいか、検討が必要かもしれない。(生徒会)
	文化祭の各企画を各自が立案、準備、運営、協力を尽力できるように指導する。		29	全体目標に対し意思統一して役割を果たせるか。来校者の満足感と、各生徒の充実感・達成感の両立ができていくか。			
	文化祭の係分担について各自が自分の役割を理解し、責任を持って仕事を実行するように指導する。		30				
	生徒の充実感や達成感と共に高い文化レベルを追求するように指導する。		31				

【事業目標7】 地域と連携し、地域に貢献できる学校を目指す。また地域に開かれた学校作りを行う

	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
地域連携・地域貢献	地域行事、ボランティアに積極的に参加する。	課外活動	32	本校の理解を深められたか。	A	邦楽・チアリーディング・調理の文化系クラブを中心に地域の行事や地元企業のイベント、またボランティア活動に積極的に参加した。テスト1週間前は参加できないが、それを主催者側にも理解をしていただきイベントの日を検討していただけたのはとても大きかった。(課外活動)	今後も積極的にイベントに参加し、地域と連携・貢献できる学校を目指す。(課外活動)
	広報活動の充実を図る。(HPの研究と充実・広報誌の発刊・地方紙への記事の提供など)	生徒募集・広報	33	広く地域の方に本校の活動を知らせ、理解と協力を得られたか。			

【事業目標8】 PTA・同窓会と協力して学校運営を活発化する

	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
PTA事業	PTA活動のあり方を再検討する。(学校行事・講演会・公開授業・PTA研修など)	PTA係・生徒募集	34	PTAの積極的な参加があったか。本校の教育活動に理解と協力を得られたか。	B	・今年度は強歩大会が別の形となったため、協力を仰ぐことはなかったが、文化祭には多くのPTA幹事の方々が協力していただいた	・入学時行う役員調査をもとに幹事を依頼しているが、一定の効果があると思われるので、今後も継続していきたい。

同窓会連携	同窓会活動に対して、同窓生の積極的な参加を促す。	同窓会係	35	同窓生が本校の教育活動に興味を示し、同窓会活動や募集活動に協力的になったか。	<p>た。また、研修旅行にはコロナ禍以降最多の数の参加者があり、有意義に過ごせた。ただ、学級PTA、学年PTAについては、学年・クラスでの取り組みに差があり、実施について今後の課題となる。</p> <p>・新しい取り組みとして「校長café」を年3回行い、トータルで40名超の保護者が参加し、学校理解を深めていただいた。次年度以降も継続する予定。</p> <p>・同窓会のご協力で、ポスター掲示箇所が大幅に増加した。(生徒募集)</p>	<p>・研修旅行の参加者が固定化されているので、より多くの保護者に参加してもらえるよう、声掛けをしていきたい。</p> <p>・学級PTA・学年PTAの実施について、係として学年会と連携し積極的な実施を促したい。そのためには各学年会に係が必要である。</p>
-------	--------------------------	------	----	--	--	---

【事業目標9】卒業生全員の進路希望の実現を目指す							
	重点項目(具体的な取り組み)	担当		評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策
自己理解	自らの個性や傾向性と真摯に向き合い、自己理解を深める。自らの長所・短所について自覚的に行動し、それに基づいて将来を構想する。	進路指導・学生会	36	個々の生徒が自らのアイデンティティを確立し、自己実現を目指し、行動しているか。	B	<p>・就職・進学それぞれの希望について学年会・担任を中心として適切な指導を心がけた。必要に応じて、進路ガイダンスを設け、生徒への情報提供や意識の喚起を行った。</p> <p>・3年次は例年のように国語科を中心に小論文指導を進路希望別にを行った。ほとんどの生徒が小論文や事前書類の提出が求められている現状において効果的なレポート指導が求められている。</p> <p>・進路ガイダンスについては、6月と11月の年2回の進路学習の日を中心として、保護者対象の飯田短大説明会など対面による機会を多く設けた。</p> <p>・大学入学共通テスト受験生に向けて年末休みに補習授業を行った。</p> <p>・就職希望者については各企業・ハローワークと連携しながら、就職時の適切なマッチングを目標に指導が展開された。2年次から企業説明等を通して、意識を高めた。その結果、ほとんどの生徒が無事に第1希望の就職を実現できた。(進路指導)</p>	<p>・現状の進路指導が担任・学年会に委ねられており、個々の教員による指導の質に差がある。進路指導委員会が中心となり、それぞれの学年段階の生徒一人一人の進路希望を全体に共有し、具体的にどのような指導をしていくかについて、係・担任・学年会による組織的な取り組みを実現したい。同時に生徒一人一人が主体的に調べ、考え、行動を起こすことも重要であり、進路指導の最終目標が個々の生徒が自らの将来について主体的に対峙することであることを、あらためて念頭に置いた指導を展開したい。</p> <p>・大学入試についても、教科に全てを任せるのではなく、受験計画や指導の内容が適切であるかどうか、進路指導委員会がある種の監査機能を果たしながら、最終的に、生徒の学力向上を学校全体で支えていく文化の確立が必要である。</p> <p>・就職指導については、希望する生徒の学習状況などを踏まえながら適切な時期に実現する必要がある。特に途中で進学から就職に移行する生徒への指導については、さまざまな課題がある。(進路指導)</p>
	受検対策		37	入試・就職試験に合格すべく、基礎力・応用力を身につけたか。			
進路情報の提供	38		将来に向けて、個々が考え出すタイミングで、有効な進路学習や情報を提供できたか。				
大学進学実績向上	大学入学共通テストに備えて、カリキュラムの見直し・改善・再構築を図る。	進路指導・教務	39	進路実績の向上が図れたか。			
	就職観や労働観を健全に育む。自らの人生を真剣に考え、どのような職業に就くべきか考察する。		40	就職希望者の全員が合格を得たか。			

キャリアパスポートの継続	キャリアパスポートを中学から引き継ぎ、個々の生徒の進路やキャリアに生かせるようキャリアパスポートの作成を行う。	進路指導・教務・学習	41	キャリアパスポートを中学校から引き継げたか。本校において新たに作成できたか。それを進路に役立てたか。	D	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの活用方法が見いだせず、中学校から直接きたものは保存してあるが、生徒個人が持っているものに関してはそのままとなっている。(教務) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校によって形式が違うものを、どう活用したらよいか。活用は難しいと考える。(教務)
--------------	---	------------	----	--	---	--	---

第2回学校評議員会にて、評議員の方より

小学校長

・今年度、小学校6年生が女子高の生徒にりんごんの踊りを教えてもらった。児童の多くが、「高校生はすごいな」と思ったと思うので、今後もお隣なのでぜひ交流をしていきたい。次年度は、6学年の全クラスがりんごんに出たいというそうなので、またよろしくお願ひしたい。

中学校長

・卒業式の際、いい表情で学ぶ姿を感じた。送り出した中学校としても、高校生活が楽しいと言ってくれているのは、何より一番で、成長を感じている。探究活動においても、5名ほどが中学校に来てくれるが、発表もしっかりしている。今後もまた、生の高校の楽しさを伝えてほしい。

PTA顧問

・アンケート結果の「学校生活が楽しい」という生徒が88パーセントもいるのは素晴らしい数字だ。企業として採用する際の面接の質問事項で、「高校生活は楽しかったですか?」と聞いているが、「楽しかった」と答えた人は、働き始めても短期間で辞めてしまうことなく、一生懸命働いてくれている。高校3年間の生活が楽しいということは良いことだと思う。

同窓会長

・先日、二十歳を祝う会で挨拶をした際、参加した卒業生が人の話を上手に聞いてくれた。卒業して社会人になって、母校に戻ってきたときに、ちゃんと話が聞ける、そういう子たちが育っているのが、なかなか他の高校ではないと思う。仏教行事など厳かな感じを体験したおかげなのか。

・この地域に、小学校、中学校とあるので、交流を盛んにしていったら、生徒増につながるのではないか。

・通信制も今年10年目ということで、10年目にしてきちんとした形になってきているように感じている。